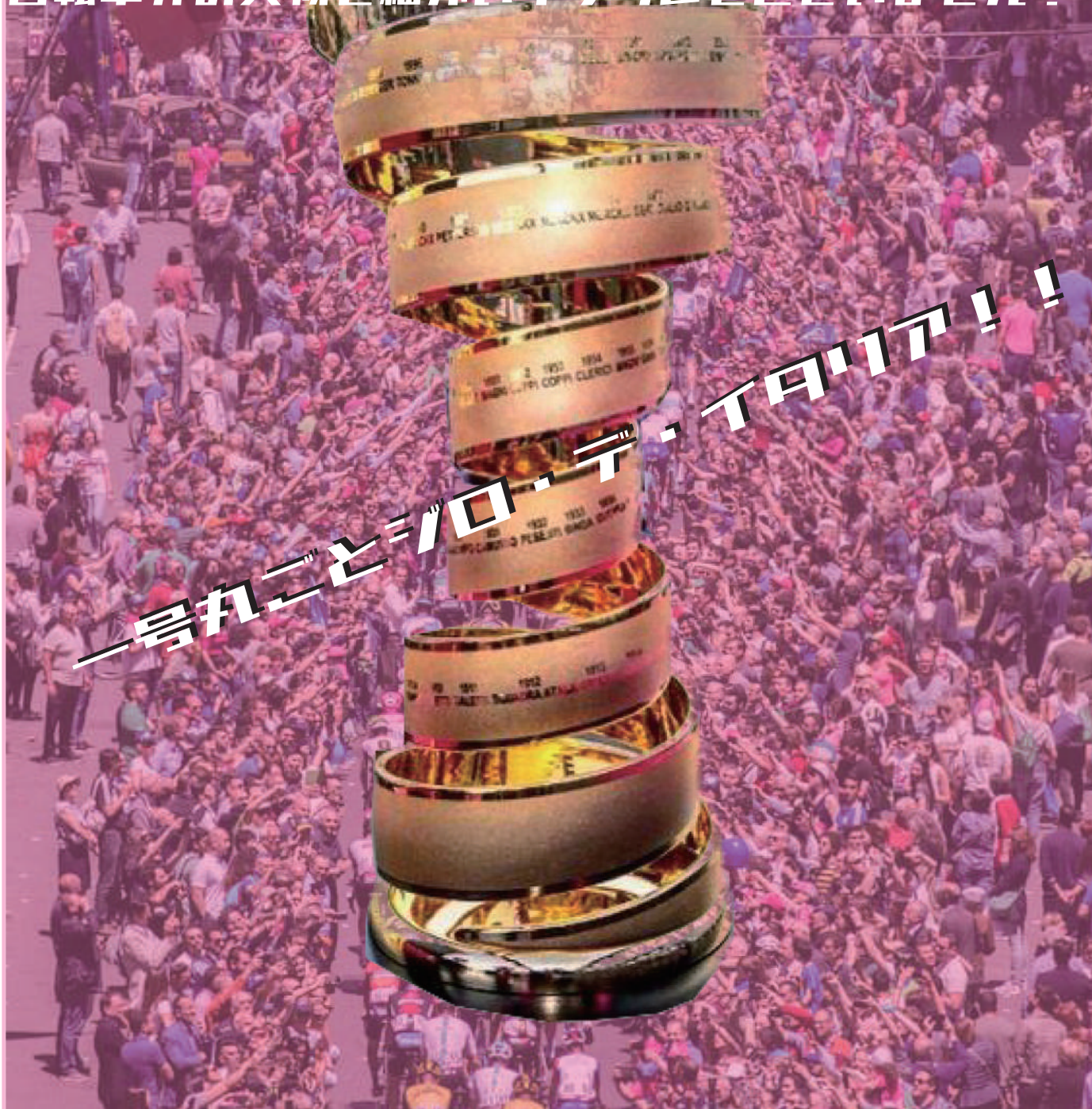


自転車雑誌

月刊、というより気まぐれ刊 ワノマノ適当編集

第二号

自転車界の大物も細かいイノブシもございません!



号九二と三ノ口・テ・タリテ!!

誰が着る？ 今年各賞のジャージ！

ワールドツアー全18チーム

注目選手紹介！！



昨年のジロで伝説的な勝利を挙げたクリス・フルーム、今年出場しないため、イネオス以外のチームにも十分にチャンスあり。

P-I-I-M-O-Z R-O-G-I-I-C

UJIBO VISMA

元スキージャンパーという異色の経歴を持ち、遅咲きのグランツールレーサーであるログリッチだが、その強さは折り紙付き。昨シーズンは三つの総合優勝を手にし、今シーズンも既にUAEツアーとティレノ・アドリアティコの二つを征している。ツール・ド・フランスにおいては難関山岳での積極果敢なアタックでステージ優勝を手にし、個人総合でも上位につけてきた。今年のジロは彼の得意とするコッパ・トリッパでも攻め続ける姿勢を持って必ずマリア・ローザ争いに加わってくることだろう。

simon Yates

MITCHELLTON SCOTT

昨年のジロでは中盤まで鬼神のごとき強さを見せ、今年はイエーツかと思つた矢先に大失速して勝負には絡めなくなったが、ブエルタではジロでの無念を晴らすような安定感溢れる走りでもイヨ・ロホを射止めた。今シーズンもブエルタ・アンダルシアでの山岳賞、パリ〜ニースのゴトでのステージ優勝と確実に仕上げてきている。特に個人ゴトでの優勝は今後の総合系のライダーとしてのキャリアの上でも非常に重要になってくることだろう。因みに彼のチームを追ったドキュメンタリー

『Eat, Race, Win』は Amazonprime 視聴可能。

TOMMORROW

SunWeb

言わずと知れた元世界コチチャンピオン、そして2017年のジロ覇者。

「能力の高さを生かし、山岳でも一定のペースを保つことでグランツールでも十分に戦えるだけの力を身に付けてきた。昨年のジロではフルームの第10ステージでの伝説的なアタックには「敢えて」ついていかず、それによって発生した10秒のタイム差を埋められず、惜敗を喫した。今年はその雪辱を果たすことが出来るかに注目だ。しかし、どうにも今シーズンの仕上がりは悪い模様、コアの飲み過ぎだろうか。」

Viviani

Bahrain Merida

全グランツールにおいて総合優勝を飾っている「メツシーナの鮫」ことニバリ、昨年ツールではラルプ・デュエズで落車、その後のブエルタでも精細を欠き、ようやく秋のクラシックシーズンに復調、という感じだった。しかし、今シーズンでは冬のトレーニングによってシーズン最初からタイトル獲得こそなくとも堅実な走りを見せてきた。トレックへの移籍が噂されるニバリだが、移籍前に一花咲かせることは出来るだろうか、ベテランの域に入り、老獪な走りを見せるニバリから目が離せない。




Team Ineos Grenada Hart

Team Ineos

フルームとトーマスが出場しない
グランツールにおいて、ベルナル
がエースを担うはずだったが、骨
折で出場がお釈迦になったため、
急遽エースの座を拝命したのが、
舌を噛みそうな名前の彼、他にも
イヴァンソトサ等比較的若いメン
バーでジロに挑む、ここで経験を
積んだ若い選手が今後もグラン
ツールにおける「イネオス王国」
を築くのだとすると末恐ろしいこ
とになる。これじゃまた視聴率が
下がっちゃうよ……。

Miki-Landa Maena

Movistar Team



昨年はキンタナ、バルベルデとのトリプルエース体制(笑)「トライデント」でグランツールに挑んだものの、誰がエースかハッキリしないせいでとんだお笑い三人衆に……キンタナはツールで超級山岳を征し、バルベルデはアルカンシエルを獲得したことによってなんとか引っ込みがついた感じはあったが、ランダはあんまり良いところなかった。今回はw人をn人ずつに分けてそれぞれダブルエース体制でグランツールへ。「SKY(現イネオス)でアシストやってた方が……」の誇りを退けられるかに期待。


Cable Ewan

Lotto Soudal

身長は下手をすれば日本人レーサーに比べても低いかも知れないが、圧倒的なスプリント力と激坂での対応力を持ってしてトップスプリンターの仲間入りを果たしている『ポケット・ロケット』ヒミツチエルトン・スコットの総合系チームへの転換でロット・スーダルに移籍、シーズンインから勝利を重ねている、特にJAEシアード第4ステージでは17%に達する激坂でも勝利を収めた。スプリンターの枠を飛び越えるパンチ力を持ってしてマリア・チクラミーノを射止めることは出来るか。

Rafal Majka

BORA HANSGROHE



ボーラ・ハンスグローエと言えば、どうしてもサガンのイメージ、しかし総合系選手もなかなかの精鋭揃い、エマヌエル・ブッフマン、パスカル・アッカーマンと圧倒的な力を持っている訳ではないものの、トップクラスの實力者が揃っている。かくいうマイカも一時期は新たななる山岳王者になるのではないか!? とも思われたほどだが、昨シーズンは低迷、ツールで果敢に仕掛ける姿は見られたが個人総合では微妙な感じに、今回のジロで復活を期することになる。

Baucke Mooma


TREK Segafredo

ポートと並ぶトレック・セガフレードの「何故か勝てないエース」であるモレマ、毎度毎度総合上位に食い込んでくると目されていないながら成績は微妙、逃げに乗っても怪しい、見せ場はあるものの「勝ちきれない」だからこそ応援したくなる（昨ツール記事参照）。「行け！ モレマ！ 頑張れ！ モレマ！」なんだかいじらしくなってきた、好き……（ガチ恋）となるのがいいところ、でもいい加減勝って！そろそろニバリが移籍してきちゃうから！自分がエースの間に勝って！



Miguell Ángel Lopez

ASTANA Pro Team

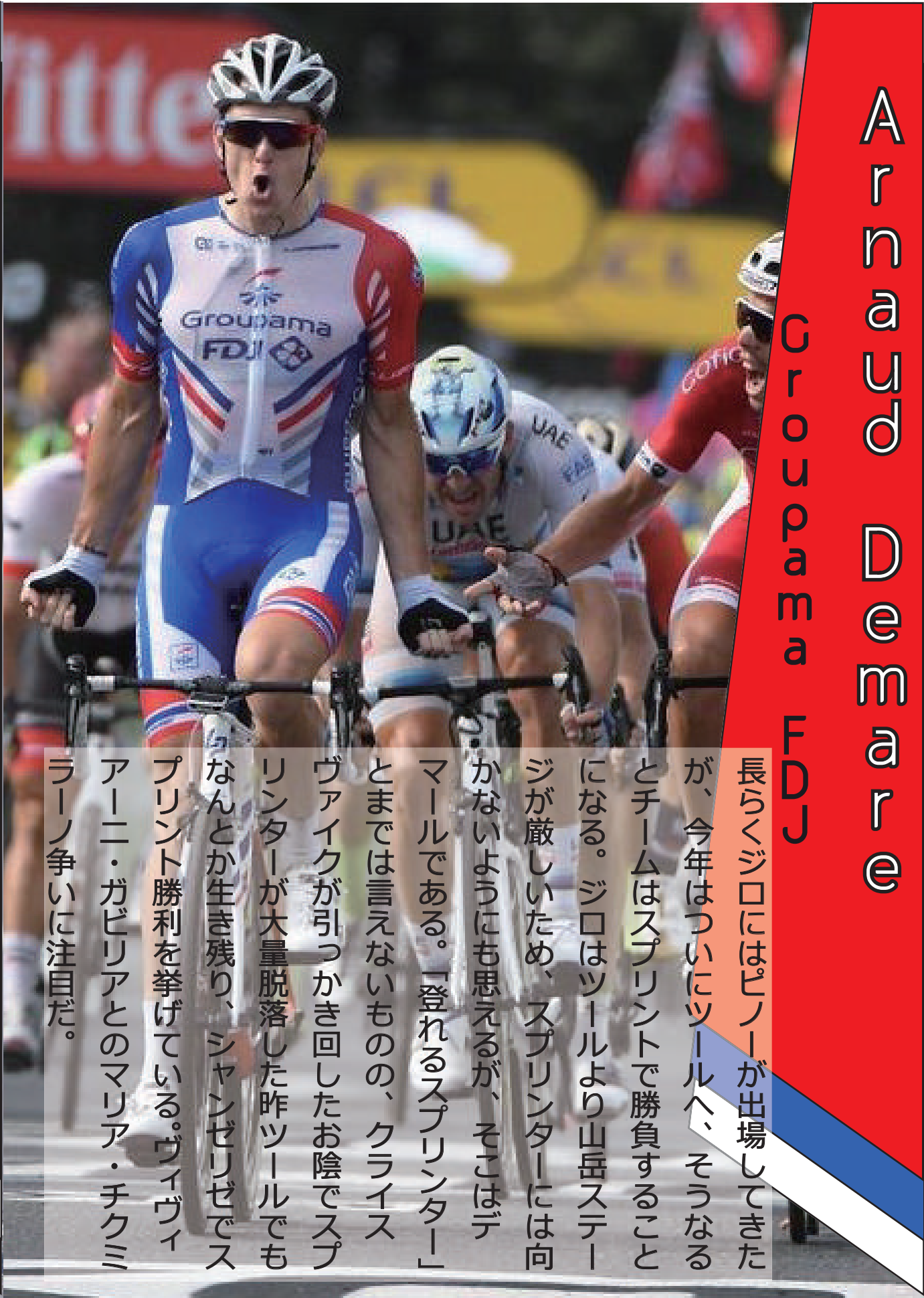


今シーズンはシーズンインからステージレース、クラシックとともに抜群の存在感を見せているアスタナ、ジロでは昨年引き続き、ロペスがエースを担い、イタリアの地を駆けることになる。ジロ&ブエルタでのポディウム登壇と安定感を見せているが、今年はポディウムの一番上に登れるかに期待、ヨン・イサギレ、ペリヨ・ビルバオとアシスト陣も豪華、特にイサギレは自身でもステージを狙えるだけの実力がある。ジロでも引き続きアスタナが存在感を見せつけることだろう。

Arnaud Demare

Crouppama FDJ

長らくジロにはピノーが出場してきたが、今年はずいにツールへ、そうなる
とチームはスプリントで勝負すること
になる。ジロはツールより山岳ステ
ジが厳しいため、スプリンターには向
かないようにも思えるが、そこはデ
マールである。「登れるスプリンター」
とまでは言えないものの、クライス
ヴァイクが引っかき回したお陰でス
プリンターが大量脱落した昨ツールでも
なんとか生き残り、シャンゼリゼでス
プリント勝利を挙げている。ヴィヴィ
アーニ・ガビリアとのマリア・チクミ
ラーノ争いに注目だ。



BOB JUNGER

Deceuninck Quick-Step

どーにもこーにも総合系、というよりスプリントやクラシックでの勝利が目立つ「ウルフパック（狼の群れ）」ドゥクーニンク・クイックステップからは現ルクセンブルク王者である彼がエースとして出場、クイックステップならではの連携や波状攻撃で勝利を手繰り寄せるか。こここのところエンリク・マスの台頭など、クイックステップは総合系のオールラウンダーでも目立ちはじめている。経営難もあって戦力は削がれたが、実績と気合いは十分、満たされることを知らない獰猛な狼の群れのレースが楽しみだ。

Alexis LAZARUS MONDIAL ermoz

出来るだけの力はあるながらも、
長らくグランツールのエース格
は拒否し続けてきた（チクリッ
シモより）らしいが、ついに今
回グランツールに、あまり目立
たないが、方々のレースで好成
績を収めており、実力は折り紙
付き、同じくパンチャーで昨シー
ズンのブエルタで一勝を挙げて
おり、エースナンバーをつけて
いるトニー・ギャロパンをアシ
ストする。ちなみにニツクネー
ムはピカチュウらしい、由来は
定かではないが……。

Saad Al-Hadi

The Education

On his first

昨シーズンは不調に喘いだエドゥアール・デューケーシヨナルファースト、今シーズンはラファのウェアを着てから調子が良いのか、シーズン開始から好成績を出している。今回のジロではサーシャ・モルドロがエクスナンバーを付けて戦いに挑む、ジロでの勝利もあるサーシャ、今回のジロは強力なスプリンターが多数出場しているため、ステージ優勝争いは必至だ。おしやれ集団TTはスタイリッシュ且つファッショナブルに勝利を目指していく。

Team Dimensional Deta

チームの絶対的なエースであった
マーク・カヴェンディッシュの不
調に苦しんだディメンションデー
タ、昨シーズンはブエルタでのイ
ンプレッシブな二勝で何とか留飲
は下がった形であったが、今シー
ズンは大幅な補強を行い、再び上
位を狙う体制を整えている。ジロ
では実力派スプリンターのジャコ
モが勝利を狙う。総合成績は昨ジ
ロで序盤は活躍したベン・オコー
ナーに託されている。



CCC Team Yukub Mareccko

昨年誕生し、現在総合エース不在の状況であるCCCチーム、注目選手はこのヤロブ・マレツコだ。イタリアのプロコンチネンタルチーム「ウィリエール・トリエステイーナ・セライタリア」から移籍してきた期待の若手、ヨーロッパ圏での勝利数は少ないが、それ以外の実績は十分、今回のジロでの圧倒的な飛躍を果たせるか、新生CCCチームに勝利をもたらせるか、マレツコに注目だ。

ジロ・デ・イタリア 事件

グランツールと言えは毎回何かしらハプニングが起こるもの、今回はジロで起きたハプニング、事件をご紹介します。

トム・デュムラン、野グソす



あまりにも有名な3コマ、山岳ステージの途中で腹痛に襲われたデュムランがバイクをおいてビブを脱ぎ捨てて野グソしに行く様子、クソを漏らしてマリアローザか、クソを漏らさずタイム差を取られるか、デュムランは人間としての尊厳を優先した。最終的にクソを漏らさずマリアローザだったので、結果オーライ。座高の上がったマリアローザなんかポディウムに上げたくないもんね！ 後に乳糖に弱いことが原因だったと判明。つか、失ったタイムが2分って速くね？ ちゃんとおしり拭いた？

クライスヴァイク、無念の落車



「ハンガー」クライスヴァイク、2016年ジロでマリアローザを5日間保持し、第1総合優勝に王手をかけていながら第19ステージで落車し、雪壁に激突、これでタイム差を失い、総合4位に転落、ここでジロを征していたら彼のキャリアも変わっていたかもしれない。実力があながらも「勝ちきれない」のはこの失敗もあるのではないだろうか（ダウンヒルをビビってはいなさそうだが）。

スーパーセクシー変態水着男、迫真ランニングで乱入



毎度のグランツールでは仮装した観客が選手たちと並走する様子や、並走してたら進路を妨害してぶん殴られる様子が見られる。お気に入りはいつかのツールでぶん殴られたにわとり君だが、2012年ジロにはこんなとんでもない変態が乱入してきた。今どき着エ〇(編集部により不適切と判断されたため一部伏せ字)でも着ないようなドギツイスリングショット、しかも蛍光色！で現れたこの男、スカイの面々も困惑さみ。あまりの迫真ランニングに画像もブレブレである。

イスラエルのTT兄弟、プロトンと並走す



昨年のジロで現れたT(タンデム)T(タイツ)なイスラエルのTT兄弟、タンデムでさらに真っピンクの全身タイツと既に仰天だが、驚くべきはそのスピードにあり、何とこのTT兄弟、かなり長くの間プロトンと並走していたのである。謎過ぎる二人組だが、なかなかの剛脚の持ち主のようだ。

今年も沿道に注目！！

このWebマガジン(物理)で使われている画像は全て各種自転車メーカー、パーツメーカーの公式サイト様からのものを使用させていただいております。その他の画像はフリー素材、特徴的な表紙や題字のフォントは851ゴチカクットというフリーフォントを使用させていただいております。

スタートリストが出るのがおそくて大変苦労しました。画像も探すのがかれました。カッコいいのはほとんどグッティだったため、、、
今回はこのへんで、またお会いしましょう。

次号予告？ 流行ればやります！

今年はグラベル！

**マイナー・新興ロードバイクメーカー
大特集**

**また見たい、というキトク存方は
流行らせて！**

**特別定価 みなさまの笑顔 建前
177から買い物して 本音**